

第6回 鹿野川ダム水質検討会

－流入河川浄化対策について－

1.追加検討の水質改善対策メニュー

【貯水池内で実施する対策(案)】

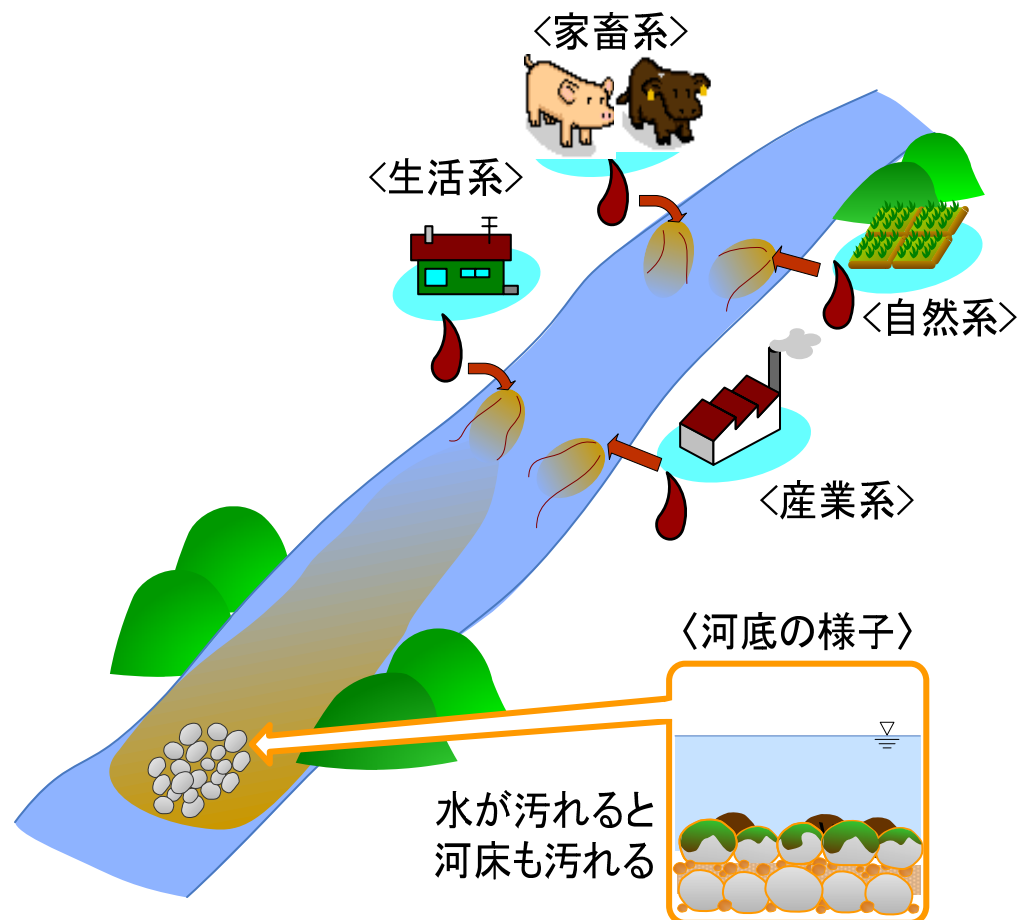
対策の種類	対策の概要	対応	本資料
滞留改善 (曝気循環)	曝気施設などにより、植物プランクトンが増殖しにくい環境を形成する。	既実施	資料-3
底泥除去 (坂石付近)	水位低下時に露出した底泥を取り除く。	既実施	—
下層DO供給	溶存酸素を回復させた水を下層へ供給して底泥からの溶出を軽減する。	追加検討	資料-3
水量改善対策	平常時の維持流量確保と、フラッシュ放流による河床の環境改善。	追加検討	資料-4

【流域で実施する対策(案)】

流入支川対策	接触材や有用微生物に水を通して水の汚れを分解し、軽減する。	追加検討	資料-5
--------	-------------------------------	------	------

2.流入支川浄化対策の目的

- 水の汚れは流域から栄養塩・有機物が流れ込むことで生じる。
- 滞留改善等でダムのアオコ抑制は可能であるが、**抜本的には、流域全体の排水等の水質を改善する必要がある。**

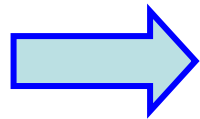


3.流入支川浄化対策の基本方針

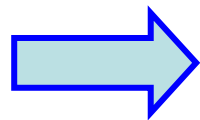
流入支川対策は排水対策であり、様々な分野の主体が一体となって、かつ継続的に取り組んで行くことが必要となり、住民との協働が求められる。



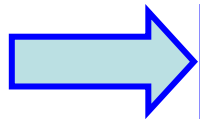
住民との協働



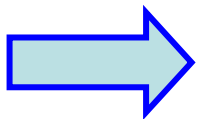
視点1: 流入河川水の浄化が可能であること



視点2: 住民参加が可能な方法(手法)であること



視点3: 地域の特性を活かした方式であること



視点4: 資源の有効活用がはかれること

4.住民協働による浄化実験の実施

流入支川対策を流域に広げかつ継続していくためには、地域に根付く、住民参加・協働の仕組み作りが必要である。

【地域に根付く浄化方式】

- 地場産品の積極利用
- 使用済み接触材の再利用

【住民協働のために】

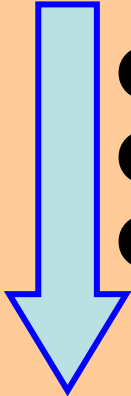
- 施設計画時からの住民参加
- 施設機能向上への住民参画



住民参加の浄化実験を実施し、浄化施設計画への参画を図る

5.実験の進め方

【予備実験】



- 浄化材の効果把握
- 浄化手法の確立
- 本実験に向けた課題の抽出

【本実験】

- 住民の参画・協働
- 実験規模、実施箇所
の拡大

実験を
通して

より多くの方の参画・協働 を得るために必要なこと

- 楽しみながらできること
- 考えながらできること
- 生活と関わりがあること
- 成果・達成感が得られること
- 過度の試行錯誤がないこと
- 過度の労力がかからないこと

6. 予備実験の内容

予備実験の内容

本実験の条件をあらかじめ絞り込み、過度の労力や試行錯誤を回避するための情報を取得する。

- 生活排水の流れ込む小水路を対象とする。
- 効果が期待できる手法(浄化材)の候補を数種選定する。
- 作業性等、本実験に向けての課題を把握する。



本実験の実施



住民・団体の参画・協働

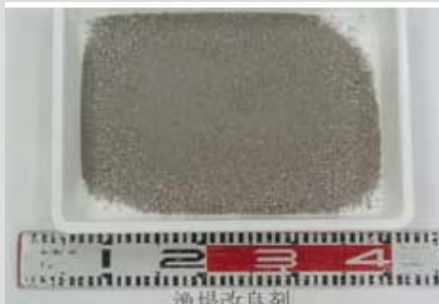
7. 予備実験のイメージ

色々な浄化材を水路に設置して、水質の改善効果を比較する。

例えばこんな浄化材



飲料容器



水質改良材



竹炭・木炭

例えばこんな風に設置



費用：数万円程度(材料・資材費用：浄化材、角材、ネット袋、ほか)

効果：BOD・リン除去率 10%前後(※事例より)